



志 企 第 166 号  
平成19年 4月27日

国土交通省道路局長 様

志摩町長 末 崎



### 中期的な道路計画の作成にあたっての意見書

平成19年4月2日 国道企第114号で依頼のあった標記の件について、次のとおり意見を申し述べます。

#### 記

#### 1. 重点化を進める上で特に優先度の高い政策

今日、道路を協議する場合、第1に議題に上るのは高速道路等の高規格道路であります。確かに、高速道路は産業を振興し、我が国の経済発展に大きく貢献してきました。今後も必要な個所が数多くあることも事実でしょう。しかし、私たち町村にはあまり馴染みの多いものではありません。

古来から道路は集落と集落を結び、その交流を通じて発展を促すものであります。その生活道路が今日では大きな改良もせず自動車社会へと突入したため、生活に支障をきたしているのが現状であります。

今回の計画では、末端の生活道路を重点的にその俎上に上げて頂きますようお願いいたします。

#### 2. 効率化を進める上で重視すべきこと

道路が新設、改良されれば周辺の土地価格が上がるということが常識化されています。周辺の土地利用度が向上し、価格が上昇するのは一般的に理解できますが、その要因の1つに道路の用地買収の価格が高すぎるから周辺にも影響していると言われていています。土地が高騰すれば企業誘致などのまちづくりにも影響してきます。

今後は実勢価格などの調査も進め、適正価格の買収を推進して頂きたいと要望いたします。

#### 3. その他、道路の整備・管理全般に関する意見

道路底地の所有権はもともと国のものだと思います。今日のように管理者が国・県・市町村とに分けられ、その財政力に応じて整備するような仕組みではよい道路ネットワークは出来ません。狭い日本です。道路のような誰でも利用できる施設は国が建設し、日常管理のみを自治体に委託するようなシステムにできないものか、検討して頂きたいと思えます。

以上